

## バイオデータ連携・利活用セミナー 企画

## 【開催趣旨】

2024年6月に策定したバイオエコノミー戦略では、「2030年に国内外で100兆円規模の市場創出を目指す」ことを目標に掲げ、バイオものづくり、農林水産業、医療・ヘルスケア分野での市場拡大に取り組んでいます。

バイオデータの利活用は、ゲノムデータを活用した疾病リスク評価やデータ駆動型育種といった応用だけでなく、発酵プロセスのセンシングによって得られる時系列データを活用した動的制御技術の登場や、リアル・ワールド・データの利活用によるデジタルヘルスなどへとその範囲が広がり、生み出される価値も拡大を続けています。バイオデータ連携・利活用の促進は、バイオエコノミー市場拡大に向け必須の取組となってきています。

一方で、実際のデータ連携・利活用の現場においては、協力・連携の前提となる目指すべき価値・目標の明確化や当事者間での共有、基本的知識・プロセスの認識のずれなど、数多くの実務レベルの課題が生じることが指摘されています。バイオコミュニティには、これら実務レベルの課題を解決に導きながら、バイオデータの連携・利活用を促していく役割を果たすことが期待されます。

そこで、本セミナーでは、バイオコミュニティの中でも調整機能を担うネットワーク機関の方々を主な対象として、活動の参考としていただくため、バイオデータ連携・利活用の実践において生じ得る実務的なハードルとその対処の実際、バイオ分野を含む多分野横断のデータ連携の取組の進展、AIをはじめとした先進技術の活用も含めた価値創出の事例、ルール形成までを見据えた実践の取組について、紹介します。

## 【セミナー概要】

名 称：バイオエコノミー市場拡大に向けたバイオデータの連携・利活用の実践

日 時：2024年9月30日（月） 13:30～15:30

場 所：オンライン（Teams）

費 用：無料

対象者：バイオコミュニティ関係機関の皆様、バイオエコノミーに関係する皆様

主 催：内閣府科学技術・イノベーション推進事務局

農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター

【プログラム】 (※司会・進行：IQVIA 池田信一郎)

13：30～13：35 開会挨拶 (5分)

中村 理彦 IQVIA ジャパン

13：35～14：00 講演① (20分+Q&A5分)

「データ基盤『DATA-EX』によるデータ連携・利活用」

真野 浩 一般社団法人データ社会推進協議会 専務理事/事務局長

SIP 第3期では、14のテーマが進められていますが、各課題の生成、計測したデータを相互に連携・活用することで、より良い成果展開が期待されています。そこで、この連携を進めるプログラム統括チーム・データ連携WGの活動を紹介します。

14：00～14：25 講演② (20分+Q&A5分)

「生物資源に関する省庁を越えたデータ連携の実際 ～アカデミアを中心とした立場から～ (仮)」

市川 夏子 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

アカデミアを中心とした生物資源に関する情報についての省庁を越えたデータの連携事例を紹介する。連携の基盤となったRDF技術やオープンデータに関するルール形成、省庁間の担当者(研究者)間の調整の実際について紹介する。

14：25～14：35 休憩 (10分)

14：35～15：00 講演③ (20分+Q&A5分)

「医療・ヘルスケア分野における先端事例」

中村 理彦 IQVIA ジャパン

医療・ヘルスケアデータ(RWD)の連携・利活用における新たな手法として、国際標準モデルを活用した先進事例を紹介する。国内外に分散するデータの効率的、効果的な連携・利活用は、今後バイオ関連産業にとって国際競争力獲得の源泉となることが期待される。

15：00～15：25 講演④ (20分+Q&A5分)

「海外で進むルールメイキングを見据えたデータ連携の動き」

吉澤 尚 GRiT Partners 法律事務所所長弁護士、バイオ有識者

研究や評価のレジストリを分散連携しつつサステナブルに運営していくには、諸外国の制度とも相互運用できる標準化された仕組みやルールを意識する必要がある。知財、人権、個人情報、安全保障など様々な視点から概観する。

15：25～15：30 閉会・事務連絡 (5分)

中村 理彦 IQVIA ジャパン